WebSDR で受信し QSO 成立？

JJ1SXA/池

第 88 号(2014 年 3 月発行)に、「RBN…Revers Beacon Network」と言う記事を書きましたが、RBN は、自分の出した電波の飛び具合のテストに最適ですが、今、「WebSDR…Web Software Defined Radio」が熱いようです、と言うか問題になっています、これは、世界中といっても、欧米が中心ですが、簡単に言うと自局の受信している信号をネットに流し、その局のサイトにアクセスした局に聞かせると言うシステムです、聞く方は、自分のアンテナでは聞けない珍局の信号もネットで聞けるというわけです、周波数や、モードを変えたり、帯域を変えたり等の操作もできます。

ここまでは、凄く嬉しいサービスですが、これを悪用する局がでてきています、どうするかというと、自分のアンテナでは受信できない DX の珍局を WebSDR で聞いて、QSO すると言う方法です、聞こえないが送りだけは大パワーで送信し、QSO 成立とするわけです、ワッチしている局がいても、QSO している状態が、自分のアンテナで受信しているのか、WebSDR で受信しているのかは、本人が言わなければわかりません、大パワーで送信していても、これもよく分かりません、QSO できている様子から、素晴らしい耳の良い、飛びの良いアンテナを設備しているのだろうと感心して聞いていますが、詐欺みたいなものです。

まあ、国内の UV バンドでも、コントロール局が、信号強度やスタンバイのタイミングまで QSP して、「はい QSO 成立」といったようなことは昔からやっています。

自分の設備では聞こえてもいないのに、QSO 成立というのは、どう考えてもおかしいと思いますが、やっている人達は、「みんなでやるから悪くない」のでしょう。

その昔、ジャパンテンワットといわれていた時代は、当時の電話級、今の 4 級の人が大部分を占めていて、10 ワットの免許で 100 ワットはおろか、当時1アマの免許上限の 500 ワットで運用していた人も多かったようですが、WebSDR で受信しての QSO 成立からすれば可愛いものだとも言えます、WebSDR で受信、大パワー送信での QSO、その名も「送り込み」と言うそうですが、それでアワードの対象にしようと言う魂胆は、笑えるものではありません、やっているのが、DX サーと称される大 OM さん達では何をか言わんやです、パワーを始め違法慣れしているからか？、DX の珍局の信号を聞き、オペレーターのパイル捌きに聞き惚れて楽しむところに留め置くべきでしょう。

もっとも、自慢の、数キロワット、数十キロワットのリニアアンプの性能を試し、悦にいっているのかも知れませんが、どうもそうでは無く、アワードの対象にするのがメインの目的のようです、そんな物に何の価値があるのでしょうか？

今、ARRL では、リモートシャックにも疑義があるとして、検討に入っているようですが、矢張りアマチュア無線は、モラルが問題、240 グループのキーワード、「より強く、より遠く」、そして「紳士的に」は立派なものと自画自賛です、守っていきましょう。